

アデリア・ホーニック

JAPN 320S サービスラーニング

斉藤先生

2016年12月6日

### ファイナルエッセイ

このクラスを始めたとき、どのような授業かはっきりわかっていませんでした。サービスラーニングは子供たちに日本語を教えるだけだと思っていましたが、実際に受けてみたことで、このクラスの深みを肌で感じました。

サービスラーニングのクラスではボランティアだけでなく、様々なことを学びました。授業の一つは、色々な記事を読み、クラスで<sup>とうろん</sup>討論し、クラスメートの意見を聞き、人はそれぞれの考え方があり、自分の考えていることと違い、<sup>しや</sup>視野が広がることのできたことも事実です。その後、読んだ記事の反映させ、21世紀のグローバルな世界に向けてのことを考えさせてくれました。この世界が段々とグローバル化としていることで多文化の世の中の大切さや<sup>てきようせい</sup>適用性も学びました。その中で、第二言語を学ぶのにはただ文法と語彙だけではないこと、さらに、小学校へ行き、子供たちに日本語の言語だけではなく、日本の文化も教えることが、生徒達の世界意識が広がる第一歩だと思います。

私は今まで色々なボランティアをしてきましたことで、サービスラーニングとコミュニティサービスの差が分かるようになりました。私たちは、異文化的なコミュニティの構築者<sup>こうちくしゃ</sup>として、正当で公正な社会をできるように協力したいと思います。

私たちのグループはチーム秋葉として、オードテラス小学校に十週間通いました。初めて教えることでとても緊張していました。生徒たちの大半がヒスパニック系で日本語に興味あるかどうか不安でしたが、皆、興味を持ってくれてとてもうれしい気持ちになりました。その後、段々慣れてきて、とても楽しかったです。

私たちが初めに教えたのは挨拶、クラスのマナーや礼儀について教え、加えて自己紹介もやらせました。その後、一人一人にカタカナで名前を書くことを教え、生徒達は自分でカードに名前を書きました。生徒達も私達と初めて会ったので、とても恥ずかしがっていました。その日は、私達も慣れていなかったのも、不安でしたが、グループのメンバーがお互いに助け合って、何とかうまくいきました。私達は毎週レッスンプランを作りましたが、その中で、一回、学校の都合でうまくいきませんでした。それは紙芝居をやる予定だった時でとても残念でした。

その他、教えたレッスンは数字（平仮名と漢字で書くこと数字の言い方）、お箸の使い方と共に日本の食卓のセット、じゃんけん（子供から大人までが、様々な場面で何かを決める時に通用すること、共にあっち向いてホイも教え）、色（日本とアメリカの虹の数の違いと基本的な色）、折り紙（つるとかぶと）、おにぎりの作り方、日本のはっきりしている四季、かごめかごめとじゃんけん列車を教えました。それぞれ

のレッスンの中に日本の文化を繋ぎ、日本とアメリカの違いを比べて生徒達に教えました。毎回授業が始まる時は、「起立」、「礼」、「着席」をやらせると共に、以前の授業の復習をし、新しいことを教えました。授業のほとんどがうまくいきましたが、時々、私達4人の経験不足で、何らかの問題がありましたが、それも次の授業につながり、直すことができたと思います。

私たちはこの学期の初めにスカームプロジェクトを発表し、オードテラス小学校の近辺を調査をし、労働者階級とわかり、そのコミュニティの子供たちは高等な教育が受けられないことを感じ、私たちはCPYを通して、CPYと同じく、生徒達に平等性を保つことができたと思います。サービスラーニングには四つ大事なアウトカムがあり、それぞれは21世紀にとって非常に重要ですが、私ものはっきりわかっているかまだ不安です。

一番目のアウトカムは自己と社会的認識しゃかいてきにんしきです。この仮定かていでは、私たちは生徒達にアイデンティティを持つそれぞれの社会的文化やコミュニティを分けることが大事だと思いました。私たちは生徒たちの文化を聞き、日本の文化を教えながら、両文化を比べて、議論をしました。そして、疎外そがいと社会的特権しゃかいてきとつけんはCPYはすべての生徒を平等あつかに扱い、疎外を防ぐことと、日本語と日本の文化をを教えることで、生徒たちは他の文化が持つ価値観を学び、ステロタイプを防止することができると思います。特に、小学生ですから、まだ世の中の偏見がないから、いい時期だと思います。

第二番目のアウトカムはサービスと社会的責任です。先生として、生徒たちに他の言語を学ぶ機会を与えました。教えることを通して、生徒たちの目を世界へ向けさせることが大事だと思います。これは、現在のグローバル化の時代にワールドシチズン（世界市民）の一員となるための最初のステップだと感じます。これから、異文化に興味を持つのではないのでしょうか。

私たちが教えたことはとても重要だと思います。それは、何人かの生徒たちが習ったことを家庭に持ち帰り、家族と情報を共有をしたからです。短期的なゴールは放課後に生徒達の宿題を手伝って、CPY を通して、日本について教えることを通して、生徒達が社会から取り残されてギャングに入る可能性を防いでいます。長期的なゴールは外国語と他の国の文化を教えることを通して、生徒達の生涯学習を促進し、教育的な機会を提供する手助けをすることです。私たちは教えることを通して、生徒と彼らの個人としてのふるまいについて学びました。生徒の大部分はヒスパニック系ですが、家族の環境に依って私たちは彼らを一人ひとり、個人として認めました。

CPY は個々の強みを強化しながら、ギャング、薬物、暴力に対する積極的な代替策を提供する予防プログラムですので、私たちは子供たちに良い例を設定し、彼らが心を開いて成長し、世界の社会の違いを理解するように支援する責任があると思います。

第三のアウトカムはコミュニティと社会的正義です。コミュニティスキャンから、私たちは、シーサイド市の大部分の家族が労働者階級ろうどうしゃかいきゅうであるということを知り、それから、彼らの必要性が何か、その人々がどのように助け合うことをわかるようになりました。オードテラス小学校の生徒達は無料、もしくは割引された昼食をもらっていま

す。生徒達は授業がよく習えるように、栄養バランスのとれた食事をとる必要があります。CPYのスタッフとボランティアは生徒達の宿題を手伝うので、生徒達はさらに平等な教育機会を得ます。私たちは、日本語と日本の文化を教えることで、文化の平等と生徒の理解を促進<sup>そくしん</sup>したが、生徒全員ではなかった<sup>そくしん</sup>ので、平等性に欠けていたので、社会正義と言えないと思います。子供が幼いとき、彼らにはまだ開いた心があります。そして、新しい情報を容易<sup>ようい</sup>に吸収<sup>きゅうしゅう</sup>して、固定観念<sup>こていかんねん</sup>を防ぐのを助けます。

第四番目のアウトカムは多文化的なコミュニティ構築<sup>こうちく</sup>と市民の関わりです。この仮定<sup>かてい</sup>はとても大切だと思います。私達はサービ斯拉ーニングを通して、小学校に生徒達に他の文化を教え、彼達の文化の類似点と相違点を比べ、生徒達に偏見のないように手助けをしたと思います。生徒達が開かれた心を持てば、家族や親せきとも割合もっと良いコミュニティになれると思います。

このクラスで様々なことを考えさせられ、少しだけかも知れませんが、色々なことを習いました。先生であることの大変さ、教えるだけではなく、レッスンプランを立て、それをうまく利用して、教えることです。生徒達と同じ目線で話すことの大切さとか、生徒達の背景をりかいし、色々新しいことを学び、様々なことを考えさせ、気づくことができました。生徒達が、幼いころはまだ心が開いているので、新しい情報を容易に吸収し、固定観念を防ぐのを助けてあげたと思います。グループでの活動が大変でしたが、逆に困ったときに、お互い助け合うことで、うまくできることも学びました。サービ斯拉ーニングの目的は、日本語と日本の文化を教えるだけではなく、教えることと

共に四つのアウトカムを繋ぐことも篤ちようだと思いました。異文化を教えることで、アウトカムの一つ一つがとても大切で、それをサービスラーニングにつなぐことで私たちも、この二十一世のグローバルワールドの一人のメンバーとして一歩近づくことができました。